

はままつ健康フォーラムは、多くの人が大きな関心を持っている「健康」「医療」について、専門的な知識と経験が豊富な講師が分かりやすく講演するものです。
正確な情報を得て、生活の質の向上や病気の予防や予測へとつなげていきましょう。
今回の講演は「失神・一過性意識消失」と「子宮頸がん検診とワクチンのお話し」について解説していただきました。
なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、2021年7月17日に講演の内容を収録しました。

講演1

失神・一過性意識消失



総合病院 聖隷浜松病院
てんかんセンター 副センター長
てんかん科 部長

ふじもと あや たか
藤本 礼尚 氏

喜怒哀楽の脳と 生命維持の脳幹

みなさんは普段生活しているなかで、いろいろなことを四六時中考えていると思います。自分のことや、他者との人間関係のことなど、脳の細胞が電氣的に働いていることによつて、私たちは物事を考えることができます。他の臓器に関しては、普段から健康状態を気にされていることが多いと思います。しかし、脳のことを考えている方はほとんどいないのではないのでしょうか。もう少し脳を意識して生活してみませんか。

脳は沢山の神経細胞とその神経細胞を支える組織からできています。その二つを構成する神経細胞についてははじめにお話ししましょう。

神経細胞は、脳の表面に集まっています。細胞体、神経突起、軸索の3つに区別され、1mmの中に約10万個の神経細胞が詰まっています。この神経細胞でいろいろなことを考えたり、感じたりしています。神経の樹状突起に神経伝達物質が作用すると、細胞の中にナトリウムやカリウム、カルシウムなどが出入りします。そして、軸索を通り、シナプスで次の神経細胞にバトンタッチされます。シナプスは、神経伝達物質が分泌される場所でもあります。代表する神経伝達物質には、興奮物質のドーパミン、幸せ物質のセロトニン、オキシトシンなどがあります。これらの物質の分泌量によつて、人々は達成感が得られたり、精神状態を安定させたりすることができま。

喜怒哀楽を感じる大脳に対して、脳幹は心臓や呼吸や血管の運動や腸の動き、私たちがあまり意識しない状況で自動的に動いてくれているようなものを司っています。生命維持のための脳の脳幹は、人間だけではなく、多くの動物に備わっています。

意識レベルについて

意識レベルというのは、脳の機能レベルのことをいいます。意識を失ったときに、救急隊員が名前や住所、生年月日を確認することがありますが、これは大脳がやられているのか、それとも脳幹まで損傷しているのかを確認しています。

意識レベルは、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと3つのレベルに分けられます。Ⅰは、刺激しなくても覚醒している状態です。しかし、意識はあるものの、少しぼーっとしている、ここがどこかわからない、自分の名前、生年月日が言えないなど、状態の程度によつては、大脳レベルが曇っ

【前編】(配信時間約20分)



https://youtu.be/JrD7-EwsilA

【後編】(配信時間約20分)



https://youtu.be/SfHtcpJrnZY

てきていると判断します。刺激をしても覚醒しないレベルのⅢになると、くも膜下出血などの脳出血を起こしている可能性があります。この場合、痛み刺激を加えることで、さらに出血をすることがありますので、救急隊員が来るまで刺激しないようにしましょう。身近に意識を失った方がいらつしたり、ご自身がそうなたたりした際は、意識の状態を把握し、医療従事者に伝えることがとても大切です。

失神・一過性意識消失の原因

2人に1人は、一生のうちに一度は意識を失うことがあるというデータがあります。私自身も、アイスホッケーをやっていたこともあり、脳震盪を何度か起こして意識を失ったことがあります。時々意識を失う経験があつても、脳波やMRI検査で特に異常なしと判断されることがあります。失神・一過性意識消失の原因は、低血糖や脳震盪などもありますが、9割は脳が原因のてんかん、心臓や血圧が原因の心原性のもの、心臓が原因の心因性と、脳以外に原因がある場合も多いです。そのため、聖隷浜松病院では、2011年から心臓の専門家の医師と協力し、診察を行うようにしております。

意識を失う前には、目の前が暗くなる、気持ちが悪くなる、血の気が引く、汗が全身に出るなどの前兆が必ずあります。また、てんかんや失神の2つに共通しているのが、痙攣です。目の前で意識を失った方が痙攣している場合、てんかんや失神のどちらかの可能性があります。てんかんは痙攣が大きく、失神性の場合は痙攣が小さいのが特徴です。

きちんと治療を行いましょう

一時的に意識を失ったとしても、意識が戻ればそのまま放置してしまう方が多くいらつしています。しかし、脳は他の臓器と比べて非常に繊細な臓器です。血がいかない状態がある程度続くと、脳へのダメージが大きくなつてしまいます。意識を失うことがある方は、場合によつては命に関わることもありますので、医療機関を受診しましょう。まずは、意識を失う原因を突き止めることが大切です。てんかんも、きちんと治療をすれば完治することができ、車の運転もできるようになります。失神に関しては、不整脈をカテーテルで治療することができます。心因性は、脳と心臓が原因のものとは違つて、治療方法が難しいこともあります。早め、心因性を見極めることが重要です。

講演2

子宮頸がん検診とワクチン



浜松医科大学
産婦人科学講座 助教

柴田 俊章 氏

子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部の細胞が悪性化するがんで、子宮体がんとは別の病気です。発がんの95%以上は、ヒトパピローマウイルス(HPV)が原因と分かっています。性的接触により感染するHPVは、男女共に多くの方が感染しますが、がんを発症するのに5年・10年と長い年月がかかり、急性の疾患でないことより性感染症ではないとされています。また、HPVは200種類程度の遺伝子型が同定されている中で、16・18型を筆頭とする子宮頸がんになりやすい型が10・20種類あり、ハイリスクHPVと言われていています。ハイリスクHPVが子宮頸部に侵入し感染したとしても、多くの場合は自然治癒しますが、HPVが持続感染することになり細胞が変化し、前がん病変を経て、最終的にがんになる可能性もあります。このように、子宮頸がんの自然史が解明されつづき、次に述べる予防戦略の重要性が近年特に注目されています。

子宮頸がんの予防戦略

子宮頸がんは、適切な予防を行えば排除可能ながんである、世界的に認識されています。子宮頸がんの予防戦略は、2つに分けられます。1次予防は、子宮頸がんにならないようにワクチンを接種すること、2次予防は、がん検診を受けて早期発見をすることです。2019年1月に行われたWHO理事会で、世界の多くの国が子宮頸がんの排除に向けた世界戦略を支持することが決定されました。2030年までに、子宮頸がんのワクチン接種率を90%以上に、そして、がん検診の受診率を70%以上にすることで、今世紀末には、地域の子宮頸がん罹患率が10万人当たり4人未満とされる排除基準を下回るようになると推計されています。

がん検診について

20歳以上の女性は、2年に1回、子宮頸がん検診を行います。子宮頸がん検診は、内診台に乗って、特殊な器具を使い子宮頸部を直接観察するとともにブラシで擦る検査をします。他のがん検診より有用と考えられる点は、直接臓器に触れることができ、細胞そのものの悪性化診断が可能なことにより早期発見がしやすい点、このように直接的な検査であるのに体への負担が少ない点でしょう。早期に前がん病変を見つけないことができれば、完治も可能です。また、がん治療としての子宮摘出を免れる

【前編】(配信時間約10分)



https://youtu.be/x25hMTvZ2R4

【後編】(配信時間約40分)



https://youtu.be/VHC3XGJ0f6U

ことが妊娠性温存にも繋がります。自分はまだ若いから関係ないとは思わず、定期的ながん検診を受けることをお勧めします。しかし、日本の子宮頸がん受診率が低く、なかなか伸びてきていません。そのため、浜松市のように、LINEで子宮頸がんの検診の情報を提供したり、がん検診の受診券を紛失した際にインターネットから受診券の再申し込みができたりと、受診率向上を目指す取り組みを行っている市町村もあります。また、コロナ禍であっても、受診医療機関は感染予防対策を講じた上で適切に検診を実施しているので、例年通りの受診ができることも覚えておくといでしょう。

ワクチン接種と副作用

日本における子宮頸がんワクチン定期接種の対象年齢は、12・16歳(小6・高一)とされています。17歳以上で接種しても効果が無いわけはありませんが、HPV感染後にワクチンを接種しても効果が認められないとされているため、性的接触で感染することをふまえ、初交経験前に接種することが理想です。有効性に関しては、HPV感染や前がん病変の抑制のみならず、近年、子宮頸がんの罹患率もきちんと減少させることも分かっています。その反面、ワクチンを接種することにより、広汎な疼痛や運動障害を含む多様な症状などが惹起されるかもしれない、また、それらが長期間回復しない場合もある、ことが問題視され、2013年4月に定期接種が可能となる改正予防接種法が施行されてわずか2カ月で、国はその積極的な接種勧奨を中止しています。しかし、現在も国による積極的な接種勧奨は差し控え中ですが、無料でワクチン接種が可能な定期接種は継続されています。その後の国の調査では、多様な症状がワクチン接種と因果関係があるとの証明はされていませんが、ワクチン接種と同時に多様な症状を呈する方が、とても低頻度ながらおられるのも事実です。そのため、接種に関して、行政機関などから提供されるリーフレットなどの情報をよく理解し検討することをお勧めいたします。

おわりに

ワクチンの男性接種の重要性や、HPV検査による子宮頸がん検診の話など、他にもお話しすることはございます。日本ではワクチン接種やがん検診の体制は整つておりますので、本講演を、「受診するの自分にとつて良いか」「今一度考えていただく機会として活用頂ければ幸いです。

【主催】はままつ健康フォーラム実行委員会 【構成団体】浜松市医師会、浜松市、浜松市内病院長会、中日新聞東海本社、静岡エフエム放送
【後援】静岡県、静岡県病院協会、静岡県看護協会、浜松商工会議所 【企画・制作】中日新聞東海本社広告部

私たちは、はままつ健康フォーラムへの協賛を通じ、市民の皆様の健康づくりを応援してまいります！

特別協賛



株式会社杏林堂薬局

協賛

浜松いわた信用金庫

